

令和7年度 大田区区レベル地域ケア会議 議事要旨

日 時

令和8年2月4日（水） 午前10時15分から午前11時まで

会 場

蒲田地域庁舎大会議室（WEB会議、書面会議併用）

参集出席委員（6名）

藤原会長、鹿野委員、丸山委員、所委員、小野委員、近藤委員

WEB会議出席委員（4名）

今井委員、高道委員、田中委員、常安委員

書面による意見提出（4名）

安達副会長、正林委員、松坂委員、富田委員

欠席委員（6名）

眞弓委員、深澤委員、青木委員、薄根委員、金澤委員、石井委員

区出席者（18名）

<福祉部>

有我福祉部長、政木福祉支援担当部長、山浦福祉管理課長、黄木福祉支援調整担当課長、喜多高齢福祉課長、金子元気高齢者担当課長、牧井介護保険課長、松田介護サービス推進担当課長、上田大森地域福祉課長、浅沼調布地域福祉課長、根本蒲田地域福祉課長、鈴木糀谷・羽田地域福祉課高齢者地域支援担当係長（若林糀谷・羽田地域福祉課長代理）

<地域力推進部>

長沼地域力推進課長

<健康政策部>

今岡健康政策部長、小西健康医療政策課長、小倉災害・地域医療担当課長、濱田健康づくり課長

<まちづくり推進部>

吉田住宅政策担当課長

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 令和6年度日常生活圏域レベル地域ケア会議実施状況について

(2) 大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介について

資 料

【次第】 令和7年度大田区区レベル地域ケア会議次第

【区レベル会議・資料番号①】 令和6年度日常生活圏域レベル地域ケア会議実施状況

【区レベル会議・資料番号②】 大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

【区レベル会議・参考資料①】 令和7年度大田区区レベル地域ケア会議の議事に関する事前
意見及び質問と回答について

【議事要旨】

高齢福祉課長

- 定刻になりましたので、引き続き大田区区レベル地域ケア会議を開会いたします。3名の委員がご都合により退席されましたので、よろしくお願いいたします。
- 区レベル地域ケア会議につきましては、原則、年に1回程度開催することとなっており、当該年度における最終回の推進会議の終了後に引き続き開催することが通例となっております。
- 昨年度から、各圏域で実施されました報告書の中から、各地域福祉課で選定したものを報告させていただいております。今年度も引き続き、各地域福祉課からご報告させていただくことに加えまして、昨年度の日常生活圏域レベル地域ケア会議の実施状況につきましても、皆様にご報告させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- 次に、資料の確認をさせていただきます。本日の次第及び、【区レベル会議・資料番号①】、【区レベル会議・資料番号②】の2つの資料を使いまして、本日の会議を進行させていただきます。これらの資料は、事前に皆様へ郵送させていただきましたが、資料に過不足がございませんでしょうか。何かありましたら、事務局までその都度お声かけくださいませ。
- また、【区レベル会議・参考資料①】という資料を本日机上配布させていただいております。こちらは、事前に委員の皆様からいただきましたご意見、それからご質問等を一覧にしまして、それぞれ区としての回答などをお示したものでございます。後ほどご一読くださいませ。よろしくお願いいたします。
- ここからの議事進行につきましては、会長にお願いしたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

会長

- 次第2番の(1)令和6年度日常生活圏域レベル地域ケア会議実施状況について、事務局より説明をお願いいたします。

高齢福祉課長

- それでは、議事(1)令和6年度日常生活圏域レベル地域ケア会議実施状況について、ご説明させていただきます。区レベル会議・資料番号①の『令和6年度日常生活圏域レベル地域ケア会議実施状況』という資料をご覧ください。

<区レベル会議・資料番号①・1ページ>

- 地域ケア会議の機能及び大田区における地域ケア会議の階層について、地域ケア会議は、『個別課題解決』、『ネットワーク構築』、『地域課題発見』、『地域づくり・資源開発』、『政策形成』の5つの機能を有しております。そのうち、区レベル会議は、『個別課題解決』を除いた、4つの機能を有しております。

- 大田区においては、『個別レベル会議』及び『日常生活圏域レベル会議』は各地域包括支援センターが、『区レベル会議』は高齢福祉課が、それぞれ主催者となって開催しております。

< 2 ページ >

- 令和6年度に実施しました、日常生活圏域レベル地域ケア会議の実施結果について、令和6年度の実施回数は36回、テーマは34件ございました。会議のテーマから地域課題を集計した結果、『孤立防止』、『見守り』そして『認知症』の3つが、地域課題のキーワードとして多く取り上げられておりました。

< 3 ページ >

- 会議の出席者を業種や団体ごとに集計したものでございます。会議の主催者である『地域包括支援センター』の職員を除きますと、『民生委員』や『介護事業所』の皆様が群を抜いており、『医療機関・薬局』そして『自治会・町会』の皆様にも多くご参加いただいております。

< 4 ページ >

- 日常生活圏域レベル会議を実施して生まれました、区レベル会議への提案を記載してございます。例えば、『見守り・孤立防止』に関する提案は、10件ございまして、「見守りキーホルダーの周知方法の工夫やチラシの変更」や、「医療・介護・福祉従事者と包括だけではなく、地域事業者も含めた関係性の構築」などがございました。

< 5 ページ >

- 『民間事業者との連携』に関する提案は、6件ございまして、「医療・福祉従事者が手間なく、モチベーション維持ができる対策」や、「地域のケアマネジャーと民生委員児童委員が交流を持つ機会の確保」などがございました。
- 『その他』におきましても、「特養のハード・ソフト面について、施設と区民が意見交換を行う場」や「老いじたく推進事業」など、5件の提案がございました。

< 6 ページ >

- 地域ケア会議の課題と今後の方向性について、令和5年度に地域ケア会議の階層を見直し、新しい実施方法に変更して今年で2年目となりますが、現在の地域ケア会議実施における課題及びその課題に対する対応策につきまして、2点挙げさせていただきました。
- 一つ目は、『個別レベル地域ケア会議からの連続性及び各階層へのフィードバックがわかりにくい』という課題がございます。以前から課題として挙げられていたものですが、個別レベル会議では、困難性・個別性が高い事例を提案されることが多いため、共通した課題抽出が困難という現場の声や、最終的にどのような形で区レベル会議から各階層へフィー

ドバックされているかが分かりにくいという状況でした。

- 今後の対応といたしましては、共通した地域課題の抽出をサポートするために、地域包括支援センター職員向けのマニュアル作成に着手するとともに、地域包括支援センター連絡会を活用して、各階層の地域ケア会議へフィードバックし、関係者に情報共有することで複合的な課題も解決されるよう連携してまいりたいと考えております。

< 7 ページ >

- 二つ目は、『地域課題から政策形成までの流れが見えにくい』という課題がございます。令和6年度から日常生活圏域レベル会議の実施内容を直接区レベル会議に報告し、委員の皆様からご意見をいただくことができるようにいたしました。今後、どのようにして政策形成につなげていくのかが課題となっております。
- 今後の対応といたしましては、日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書における『区レベル会議への提案』に記載されている内容を、区の各所管部局担当へ情報共有することで、当該担当職員が地域における課題を把握し、事業の見直しや改善を図ることに加え、必要な事業・取組を分析及び精査することで、最終的にはおおた高齢者施策推進プランへ反映していくことを検討してまいりたいと考えております。
- 本議案につきましては、事前意見として2件のご意見を頂戴いたしました。ご意見の内容、区の回答につきましては、お配りしております、区レベル会議・参考資料①の1ページから2ページに記載しております。
- 事前意見としましては、『地域住民や地域の関係団体などが地域ケア会議へ主体的に参加してもらえるような周知、啓発の方法』や、『機能が重なっている他の会議体との統合及び包括的な区レベル会議への提案』について区として検討しているのか、とのご質問がございました。
- 区の回答としましては、地域ケア会議の趣旨や目的を踏まえて区として取り組むべきこと、また、他の会議体との違いなどを記載しております。詳細につきましては、時間の限りもでございますので、後ほどご確認いただけますと幸いです。
- 議事(1)の説明は以上となります。ありがとうございました。

会長

- 事務局からの説明に対して、ご意見などありましたら、挙手をお願いいたします。

委員

- 先ほどおっしゃったように、フィードバックの方が課題になっているという点は、私も常々感じているところです。資料の1ページでも一番下に「個別レベル会議」があり、さらに「日常生活圏域レベル会議」と「区レベル会議」があると思います。

- 私どもは主任ケアマネジャーとして個別レベル会議に参加することはよくある話ですが、お聞きしたい点として、日常生活圏域レベル会議と区レベル会議では「検討を行います」となっていますが、こちらの検討結果は区民の方がどこで見ることができるのでしょうか。
- さらに、個別レベル会議で私は主任ケアマネジャーとして参画しており、こちらに関しても1つの事例に対して地域課題を抽出するために話し合い、会議を行っておりますが、どうしても1つの会議だけでは地域課題の抽出まで結びつかないことがあります。その点について、参画する主任ケアマネジャーとして、どのような形で確認できるか、そういった仕組みがあるのかを伺いたいと思います。議事録はいただいておりますが、それ以外に確認できる手段があるのかどうか、教えていただければ幸いです。

高齢福祉課長

- 以前から一番下の階層にある個別レベル会議に出席している方々にとって、上の階層の情報が見えず、どうなっているのかが見えにくいといったご意見を頂戴しております。
- 区レベル会議で今回いただきましたご意見については、日常生活圏域レベル会議を主催している地域包括支援センターに対して、各地域包括支援センター長が出席する地域包括支援センター連絡会を通じて情報共有し、上から順番に降りていくような形で戻していきたいと思っております。
- また、当然のことながら個別レベル会議でお話しされている内容は、委員も出席されているのでご存じかと思いますが、個人情報満載の個別具体的な話をしておりますので、だんだん多くの方がその話を知り得るようになってくるのはやはり躊躇する部分で、なかなかお話しできない状況でございます。そのため、大変かと思いますが、共通点や共通課題を抽出して、日常生活圏域レベル会議に上げていただいて、さらに困難な事例については区レベル会議へ上げていただきたいと思います。そして、日常生活圏域レベル会議や区レベル会議でそれぞれ意見が出てくるとは思いますが、これらの意見を下の階層にフィードバックしていくような仕組みを構築してまいりたいと考えております。
- なお、議事録をそのままお示しすることは、まだ方法論として考えてはおりません。文字起こしとしてお渡しするのか、あるいは口頭で説明するのかを含め、適切な仕組みづくりを検討させていただきたいと思っております。

会長

- 他にご意見はいかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。
- それでは、引き続きまして、次第2番の(2)大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介について、事務局より説明をお願いいたします。

大森地域福祉課長

- それでは、議事(2)大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介について、ご説

明させていただきます。

- 区レベル会議・資料番号②、『大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書』に、各地域包括支援センターで実施しました、日常生活圏域レベル地域ケア会議を取りまとめてございます。事例紹介はこの中から抜粋して、各地域福祉課長から、大森、調布、蒲田、糀谷・羽田の順に報告をさせていただきます。
- 資料の2ページをご覧ください。馬込圏域の地域ケア会議について報告いたします。

<区レベル会議・資料番号②・2ページ（馬込圏域）>

- 個別レベル会議、日常生活圏域レベル会議と連続性を意識した会議であったことから、馬込地区を選定しております。
- 令和7年11月21日に馬込特別出張所にて、『ひとり暮らし高齢者等の“地域の見守り”』をテーマに、包括馬込と包括南馬込が合同で開催をしております。当日は馬込地区の民生委員のほか、介護事業所や包括職員など23名が参加いたしました。
- 会議で取り上げた検討事例は、高齢のご夫婦の事例です。ご主人が先に他界し、一人となった奥様が精神的に不安定になり、担当の民生委員に連日昼夜問わず、電話や訪問をしてくるようになった事例について、グループワーク形式で意見交換を行いました。突然単身世帯になる高齢者が増えており、地域全体での見守りが必要との視点でこのテーマを選定しており、役割分担や連携のあり方を可視化することを目的として、実施をしております。
- グループワークでは、本人の寂しさや心配事、楽しみなことなどを聞きつつ、家族支援や近所とのつながり、ボランティア、地域活動、サークルへの働きを通じて、社会資源を活用し、介護サービスにつなげていくなどの意見が出ておりました。また、地域像を共有し、関係者が同じ方向を向いて取り組めるように、馬込地区のキャッチフレーズを考えております。そして、関係者が日頃から、挨拶や声掛けを行い、担当者が一人で負担するのではなく、関係機関が相互に助け合う地域づくりにつなげていこう、との意見でまとまっております。
- 区レベル会議への提案として、寂しく不安なときに、昼夜問わず、人と会って話ができる関係性や居場所がないという意見のほか、馬込地区は坂が多く、地域のサークルやシニアステーションへの送迎が必要じゃないかといった意見が出ておりました。
- 大森地域の報告は以上でございます。

調布地域福祉課長

- 続きまして、調布地域福祉課長から、調布地域における日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介をさせていただきます。調布地域の実施報告につきましては、お手元の資料の6ページから13ページに記載してございます。その中から今回は、8ページの久が原圏域の地域ケア会議について報告いたします。

< 8 ページ (久が原圏域) >

- 会議のテーマは、『入退院時の医療と介護・福祉の連携について「第2弾」～地域の病院と話し合おう！退院時の情報共有について』でございました。
- 退院時における病院と地域の支援者との間で、本人の病状の共有や在宅生活を送る上での環境整備など、より綿密な連携が求められることから、今年度、本テーマを設定して地域ケア会議を開催しております。
- 出席構成につきましては、医師、看護師、医療ソーシャルワーカーなどの医療従事者、ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護事業所職員、薬局、福祉用具事業所、福祉社会協議会の職員、行政職員など、計82名が参加して実施をしました。
- 会議の内容につきましては、まず区内および区外の近隣の計7か所の病院から、退院時の退院支援への取り組みについて、地域との連携や病院の特色等のご説明をいただきました。次に、福祉用具を取り扱う事業所から、退院後に在宅で福祉用具が必要になった方への支援の流れについて、説明をしていただきました。そして、グループワークとして、「相手の立場を知って、つながりの難しさを解消しよう」というテーマで話し合いを設けました。
- グループワークにつきましては、それぞれ医療や介護、色々な事業所間の情報交換を行い、各役割が担う業務などのイメージを共有したうえで、意見交換を行ったところです。
- また、その中で様々な課題も共有されました。例えば、一人暮らし高齢者などはキーパーソンがいない、支援者が介護サービスを利用したとしてもセルフネグレクトを含めて支援を受け入れてくれない方がいる、入院日数が短期傾向となる中で病院と地域の支援者などが同じ方向を向いて支援を行うことで、よりスムーズな退院時支援が行える、退院時の情報共有のためのツールがあれば支援がより迅速になる、等の意見が出されたところがございます。
- この地域ケア会議は夜間に実施させていただきましたが、各分野から82名ものご参加がございました。退院時支援における地域の中の連携が重要視されていることを改めて再認識した次第でございます。また、今回のグループワークを通じて意見交換を行ったことで、これまで以上に連携しやすい関係性の構築にもつながる機会であったと考えております。
- 調布地域の事例紹介は、以上でございます。

蒲田地域福祉課長

- 続きまして、蒲田地域福祉課長から、蒲田東圏域の地域ケア会議について報告いたします。

< 16 ページ (蒲田東圏域) >

- シルバーピアコージーという、いわゆる高齢者向け、単身世帯向けの公営住宅をテーマとし、包括蒲田東において、色々と話し合いを進めてまいりました。
- 本件は、令和7年2月に包括職員とシルバーピア居住者の方々が「倒れる前に考えておくこと」というテーマで話し合いを行いました。そこでは、いざというときの備えや近隣関

係、社会資源へのつながりについての認識がまだ不足しているとの課題が出てきたそうです。これを踏まえまして、3月には地域の方々や関係者を交え、社会資源を知るために今回と同テーマの地域ケア会議を開催しました。

- そのような中で様々な手法に対する認識が深まった一方で、いわゆる老いじたくについては、どうしても自分ごととして捉えることがなかなか進まないという現状がございました。その背景を受けて、今回7月にシルバーピアの居住者や社会福祉協議会の職員、自治会・町会の方、民生委員等を含めまして、老いじたくについての話し合いを行ったところでございます。
- 現在、大田区においては年々老いじたく情報登録事業の拡充を図っており、やっと今年度で特別出張所単位でのセミナーが1回終了する状態でございますが、参加者から話を伺うと言葉的にネガティブな部分があり、参加しにくいという現状もあったそうです。しかし、今後のご自身の意思をどう反映するか、権利をどのように要望するかといった点の必要性を、皆様ご理解いただいたそうでございます。
- 区でもパンフレットの作成やセミナーを行っておりますが、いわゆるマイクロ単位での世界において会議体を進めることで、高齢者の方々が自分事として感じられるような手法として、今回この事例を紹介するものでございます。
- 蒲田地区は以上でございます。

糀谷・羽田地域福祉課高齢者地域支援担当係長

- 続きまして、糀谷・羽田地域の事例を紹介したいと思います。

<24 ページ（羽田圏域）>

- 会議テーマは、『認知症、MCIの方が継続して地域の通いの場、つどいの場に参加していくための取り組み』です。テーマ選定理由としましては、先ほどと同様、個別レベル会議からの連続性を意識した取り組みだったため、選定させていただきました。
- 日常生活圏域レベル会議に先立って、個別レベル会議を令和7年8月7日に実施しております。参加者本人、親族、補佐人、介護事業者、ケアマネジャー、地域包括支援センターの職員となっております。
- 個別レベル会議の内容としては、これまで地域の通いの場やつどいの場に参加できていた方が、認知症を発症したことにより、参加継続に課題が生じたため、対応を関係者で検討しました。その場では、本人から今後も地域の通いの場に継続して参加したいという希望が出されております。
- 本人の困りごととして、通いの場には行き帰りに不安があるという点と、会食などがあるためお金の支払いの部分が課題として挙げられました。これらを整理するとともに、ケアマネジャー、親族、保佐人、関係者で連携して社会参加を継続するための方向性を検討し、送迎の見守りや金銭の支払いといった、介護保険サービスでは難しいインフォーマルな支

援の必要性が確認されました。また、その通いの場にいる方々の認知症や MCI に対する理解不足といった点も、参加継続を難しくしている現状として意見が出されました。

- こうした個別レベル会議の検討を受けて、高齢者の方、認知症の方が地域とのつながりを維持して社会参加を継続していくためには、地域で何ができるかという点を日常生活圏域レベル地域ケア会議として検討していく必要があるとの認識のもと、ボトムアップして検討したという形でございます。
- 日常生活圏域レベル会議は9月16日に実施し、出席者は居宅介護事業者の方、ケアマネジャー、社会福祉協議会、権利擁護センター、通いの場の代表の方、地域包括支援センターの職員となっております。日常生活圏域レベル会議では、通いの場の代表の方とともに、参加者がどうやったら継続して通ってもらえるかという点について、意見交換しました。
- 出された意見としては、認知症サポーター養成講座を通じて正しい理解や接し方を周知していくこと、参加継続が難しくなった場合には、早期に地域包括支援センターやケアマネジャーへ連絡してもらうこと、関係機関同士の日頃から顔の見える関係づくりが重要であることなどが挙げられました。本事例を通じて、認知症や MCI になった場合でも、地域や社会のつながりを保ち続けるためには、個別支援だけではなく、地域の理解や支え合い、仕組みづくりが重要であることが確認されました。
- 区レベル会議への提案としましては、認知症発症後の地域や社会参加の継続の困難さが課題であり、新しい認知症観を踏まえた認知症講座の企画及び実施が挙げられております。
- なお、対象者の方は、友人や保佐人、親族が支援して、現在も通いの場へ参加継続できている状況でございます。
- 糀谷・羽田地域の事例紹介は以上となります。ありがとうございました。

会長

- 事務局からの説明に対して、ご意見などありましたら、挙手をお願いいたします。

委員

- 最後の事例についてお伺いいたします。保佐人やご親族が支援者というお話がございましたが、日常生活圏域レベル地域ケア会議には出席していなかった、またはできなかったのはどういうことでしょうか。

糀谷・羽田地域福祉課高齢者地域支援担当係長

- 個別レベル会議では、ご本人や親族、保佐人の方などに出ていただきましたが、そこから地域課題として抽出され、日常生活圏域レベルへ持ち上がって検討することとなったため、こちらの会議には出席しておりません。

委員

- 今回、4地域の日常生活圏域レベルの事例を拝見して、2点ご質問させていただきます。
- 一点目として、地域性が出ているといえそうなかもしれませんが、出席者の数に地域差が見受けられます。調布地域の先ほどの事例では、出席者数が82名と大人数で実施されている一方で、糀谷・羽田地域では、少人数で数多く実施されております。日常生活圏域レベル会議の開催方法については、それぞれ地域ごとに特徴を出して進めているという理解でよろしいでしょうか。また、少ない人数で多く実施した方が良いのか、あるいは、大人数で実施した方が連携は進みやすいのか、これまで実施してみた中での実感をお聞かせください。
- 二点目として、介護事業所が出席している場合とそうでない場合が混在している状況ですが、そもそも呼ばれていないのか、あるいは参加していないのか、お伺いいたします。呼ばれていないのであれば致し方ありませんが、参加していない場合には介護事業所連絡会として参加を促さなければならないと思っております。その招集が介護事業所にも伝わっているのかを教えてくださいたいと思います。

調布地域福祉課長

- 4地域まとめてご回答させていただければと思います。
- まず、一点目の規模に関するご質問についてですが、規模感が大きい地域と小さい地域があり、それぞれにメリット・デメリットが存在すると考えております。
- 調布地域におきましては、ニーズが多く、大規模で実施している圏域もございますが、これらはテーマ設定や田園調布医師会のご協力もございまして、大規模になったと思っております。
- 地域包括支援センターと地域福祉課が連携を取りながら開催しているものでございますが、特に地域包括支援センターは、地域の方々を含む様々な関係者と関わりながらテーマ設定や課題の抽出を行い、現場感を持って実施させていただいております。そのため、会議テーマによって参集いただく方、お声掛けする方も異なってまいります。
- 例えば、民生委員の方がほとんどの場合もあれば、医療関係者が中心の場合もあり、医療関係者や介護事業者をお呼びするような形の地域ケア会議は、比較的大規模になる傾向にあります。また、日常生活圏域レベル会議は、個別レベル会議から課題抽出し、連続して上がってきたものでございますが、例えば、関係づくりといった比較的大きなテーマを設定した場合には、規模が大きくなる傾向があります。
- 二点目の介護事業所が呼ばれていない、参加しないのかという点につきましては、こちらもテーマごとの課題を踏まえ、こちらからお声掛けをしていないという趣旨でございますので、お声掛けしたにもかかわらず参加していないということではないことをご理解いただきたいと思います。

委員

- それぞれの地域で日常生活圏域レベル会議の開催に向けて、共通した課題を出して選定しておりますが、冒頭にあった課題の説明では、かなりご苦労されているのではないかと感じておりました。
- 前回もご質問させていただきましたが、今後区レベル会議への提案として上がってきている事業や取り組みについて、具体的にどう扱っていくのかを伺いたと思います。
- 例えば、今後も継続的にこ「こういうことをやっていきましょう」という提案というよりは意気込みの確認に近い内容がございます。一方で、提案の中には、例えば見守りキーホルダーのGPS機能付加といった費用を要する施策と、費用を多く使わず地域住民の協力を得て進めていく施策とがございます。いわゆる実現性の観点や地域づくりの過程の中で取り組むべきものの整理がどのようになっているのかが気になりました。
- つまり、区レベル会議の中で、このような提案があったので、将来的に予算も含めて区の方で検討してみたいとか、あるいは何かしらそういったものへのつながりが整理されているのか、改めてご教示いただければと思います。

高齢福祉課長

- 当然ながら予算が必要なことは検討していかないとならないのですが、特に見守りキーホルダーのGPS機能の付加やICT化については、以前から色々話題として挙がっております。しかし、見守りキーホルダーのGPS機能の付加やICT化については、非常に高額の予算が必要になることが最大のネックとなっておりまして、現時点では実現が難しいと考えております。
- しかしながら、委員がおっしゃるように、区レベル会議への提案の中でも予算が必要なものやそうでないものもございますので、当然ながら目を通して実現可能なもの、また、少し無理をすれば実現可能になるかもしれないものについては、それぞれ各管轄の係がおりますので、検討はさせていただいております。
- ただ、一足飛びにすぐ検討できる問題でもないため、現在は地域包括支援センター連絡会を通じて、区レベル会議への提案で検討している内容を下へ順次降ろしていく仕組みづくりを進めていきたいと考えてございます。

委員

- 前回も提案させていただいたとおり、基本的にはお金がかかるものについては、国や東京都が補助事業化した場合には活用できる場合があります。しかしながら、大田区が独自に予算を立てて実施する事業については、現状かなりの限界があるという点も、当然理解したうえでのご話でございます。
- そのうえで、例えば、区レベル会議ではこのような意見が上がってきていて、すべてが実現できるわけではないという前提のもと、区のほうで一定の整理をつけて今回検討すべき

内容を指定し、区の見解も述べながら、皆様のご意見を伺う形にしたほうが、建設的であると感じております。

- 具体例として、外国人の高齢者は今後ますます増加する見込みです。そうになると、言語や文化の違いによって現場で苦勞するケースが想定されるため、日常生活圏域レベル会議のテーマとして挙げたとします。そういう話になったときに、外国人の方へ情報をどう提供するかといった課題が生じますが、通訳を一人ひとりに充てることは現実的ではありません。その際に、厚生労働省が進めている「やさしい日本語」を区内で進める案を検討します。既に外国籍の方の母国語でパンフレットを作成しているかと思いますが、それに代わる形で、やさしい日本語で分かりやすく情報提供できるものを作成していきましょうといった話になってくるかと思えます。このような話となれば、資金を多く投入する必要がないと考えます。
- 今、一つの例を申し上げましたが、何かしらできそうなものを区レベル会議の方で検討したり、皆様の意見をいただいたりした方が良いと思えます。お金をかけることは現実的に難しいため、お金をかけなくてもできそうなこととして、地域づくりにおいて住民の方々への理解を深めるとともに、区の職員がもう少し積極的に関与していくようにすることも考えられます。これにより、大田区として日常生活圏域レベル会議から上がってきた課題の解決に向けて、実効性のある姿勢を示すことができれば良いのではないかと思いました。
- 以上、区のほうで今後検討を進めていただけるということですので、よろしく願いいたします。老婆心ながら、失礼いたしました。

高齢福祉課長

- ご意見ありがとうございます。しっかりと検討してまいりたいと思えます。
- 先ほど委員から、国や東京都が補助を出すと取り組みやすいというお言葉がございましたが、少し補足させていただきます。国や東京都は、施策的に補助金を出すことはございますが、この補助金は長期的に継続されず、すぐに無くなってしまうことが多いです。
- そのまま永久的に継続してやっていただけると良いのですが、来年から突然補助金が無くなる可能性や半額になる可能性があります。つまり、普及したい施策を国や東京都が大きなお金を出して広めようとはしますが、ある程度広まると判断し、補助金が打ち切られた場合には、すべて区費へ移行することとなります。その際に、予算切れを起こさずに継続性をどのように確保するかを含めて、区は慎重に検討する必要がございます。

委員

- はしごを外されるという状況はよくある話なので、それを踏まえて、先ほど申し上げたとおり、すぐに予算化できて実施可能なものを地域の人たちと作っていくことがまさに地域ケア会議というものです。個別レベル会議から区レベル会議までという形は、自治体や区民、専門職と呼ばれる方々との間で、最終的にはみんなで作っていくものだと考

えております。

- したがって、区の施策として展開したものに関しては、お金をずっとかけ続けるようなものだけではなく、住民の方々にもご協力いただくという地域づくりの一つの手段として活用していくべきだと考えます。
- 最初から補助金がずっとあるわけではないので、3年の時限的に実施してみても良いと思います。その取組が必要だと思われる場合には、区の自前予算で賄えるかどうかを検討し、賄えない場合にはその事業の今後について再検討していくこととなります。一度にすべての提案を挙げるのは現実的ではありませんので、一年間に1つ程度は中長期的な視点で考えてもよろしいのではないかと思います。批判したいわけではなく、なかなか事業化が難しい場合もあるため、区レベル会議での議論の中で、実現可能かどうかを含めて意見をいただくことが適切だと考えています。

高齢福祉課長

- 本当に委員のおっしゃる通りだと思いますので、できるできないも含めて、何が区民にとってよいのかを検討したいと思います。
- また、新しい事業を1つ行うにあたっては、スクラップアンドビルドではないですけども、何かを切っていないと我々の職員体制も整いませんので、その点も含めて、区民にとってよりよい方策を考えていきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

会長

- 委員がおっしゃるように、課題の整理をして、今回区レベル会議で真剣に知恵出しをしないといけないものもあれば、地域づくりや居場所づくり、見守りといったテーマで、地域での工夫や好事例の共有によって解決できるものもあると思います。区の職員の方も学習は大切ですが、むしろ地域の方々やNPO、ボランティアの方々が見学や勉強会をしてもらい、現場で活躍してもらうことで解決できるものと、財政や国の動向も踏まえて、議論するものをそれぞれ整理していただくことが大事だと考えます。
- 毎年、様々な課題が出てきていると思いますが、まだ解決に至っていない継続案件もあると思います。それが担当者の異動や地域の変化、役所の方針変更などにより、案件が立ち消えとなる可能性もあります。過去の課題や提案を含めて継続して記録にまとめ、すぐに一覧で担当者が共有できる状態を作り、その中で区レベル会議において解決すべきものを絞るというメリハリをつけた議論の機会を作っていただければ良いと思いました。
- ありがとうございます。そろそろ時間が迫ってまいりましたが、他にご意見はございますでしょうか。
- 全ての議事が終了しましたので、事務局にお返しします。

高齢福祉課長

- 会長ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、円滑な議事進行に多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。
- 以上をもちまして、大田区区レベル地域ケア会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり、お疲れ様でした。来年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。